

書名	普賢行と浄土思想			著者名	中御門敬教／著		
出版社	起心書房	ISBN	978-4-907022-29-7	本体価格	¥16,200	発売	2024/3/1
内容	龐大・絢爛たる『華嚴経』の掉尾を飾る『普賢行願讃』。そこに説かれる大乘菩薩の広大な誓願を、初期大乘の先駆經典と、インド・チベットの諸注より解明し、「浄土の菩薩の利他行」への展開を探る。『普賢行願讃』以下、二つの先駆經典、陳那(ディグナーガ)、釈友(シャーキャミトラ)、智軍(イエシエデ)の三注の全訳を収録した、貴重な成果。						

書名	記紀の考古学			著者名	森浩一／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-082505-2	本体価格	¥1,300	発売	2024/3/8
内容	伊勢と出雲、ヤマトタケル、天皇陵古墳……『古事記』と『日本書紀』は歴史であると同時に物語だ。遺跡発掘による史料を加え考古学的な検証スタイルを確立した「古代学」の第一人者が日本古代史を読み直す。						

書名	奈良公園の案内書 ～極(きわみ)～			著者名	千田 稔／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04911208-5	本体価格	¥1,500	発売	2024/3/8
内容	史跡や国宝が多数現存し、日本有数の観光名所として知られる奈良公園。興福寺、東大寺、春日大社といった古代からのたずまいを残しつつ、生息するシカや自然との調和も美しい、日本を代表する公園です。 本書はそんな奈良公園の魅力を、17のテーマでひも解く一冊。歴史や文化を深く知ること、これまでとはひと味違うディープな散策を楽しめます。						

書名	平安時代の宗教儀礼と天皇			著者名	斎木 涼子／著		
出版社	塙書房	ISBN	978-4-8273-1349-9	本体価格	¥11,000	発売	2024/3/10
内容	主に10～12世紀の朝廷における神祇祭祀や仏事、また天皇や院に関わる宗教儀礼の成立と政治動向・政治構造との関係を検討し、古代から中世への転換期の天皇を考察する。						

書名	奈良 その光と陰			著者名	淡野 明彦、穴田 敏之、神野 浩／著			
出版社	古今書院	ISBN	978-4-7722-6131-9	本体価格	¥7,000	発売	2024/3/21	
内容	「飛鳥京」、「藤原京」を経て「平城京」が開かれた奈良は、古代からの伝統を受け継ぎ、遺跡や古墳をはじめ、その面影を残す地域がある一方、大都市大阪の近傍にあることにより、県北部では都市化の進行が著しい。また、県南部には「近畿の屋根」とも称される険しい山地が広がっており過疎化による地域社会の崩壊が危惧される地域があるという大きく三つの面が同時に進行している。							

書名	都市と文化のメディア論			著者名	堀野 正人、谷島 貫太、松本 健太郎／著			
出版社	ナカニシヤ出版	ISBN	978-4-7795-1794-5	本体価格	¥2,600	発売	2024/3/24	
内容	都市文化に関わる近現代的な事象に多様な角度から迫り、情報化の進展にともない、基本的な単位や輪郭が再編されつつある都市を捉える							

書名	おぼえる！学べる！ たのしい都道府県			著者名	井田 仁康／著			
出版社	高橋書店	ISBN	978-4-471-10456-6	本体価格	¥1,300	発売	2024/3/25	
内容	都道府県のなぜ？が学べる本。イラスト図解で、自然→産業→暮らしがどうつながるか、よくわかる！							

書名	NHKシリーズ 心をよむ 万葉びと、その生と死と			著者名	上野 誠／著			
出版社	NHK出版	ISBN	978-4-14-911089-9	本体価格	¥900	発売	2024/3/25	
内容	死について考えることは、生について考えること。死後の世界は、想像するしかない。しかし、生の終わりとしての死を考えることによって、私たちは初めて、生をはっきりと自覚することができる。七世紀後半から八世紀の中頃を生きた万葉びとは、苦難や絶望をどうとらえ、生と死について、どのような考えを持っていたのか。残された歌を現代の視点で訳し、鑑賞しながら、今を生きる私たちの心にもある愛や哀しみへの思いを明らかにしていく。							